

学校教育目標

ふれあいⅡ 「やさしく かしく たくましく
自分のよさを生かして
未来を創ろうとするしゃちっ子」
の育成

令和7年5月23日 校長 重松 景二

愛でいっぱい、学びでいっぱい、遊びでいっぱいの学校にする
アップデートしよう（未来を創るのは子どもたち）

麦秋のころ 黄金色に輝く…



刈り取りが始まっていますが、麦が実り、黄金色に輝く畑は、その美しさによって暑さを少しだけ和らげてくれるようです。しかし、最近の暑さは曇っていても雨が降っていても厳しいですね。今週は30度に達する日もありましたし、熱中症に十分気をつけなければなりません。体育の時間や昼休みなど、日照や気温を観察しながら対応していきます。



最近また、バス乗り方・待ち方や道路の横断の仕方で、地域の方から苦情が来ています。どちらとも基本的に低学年がほとんどです。バスは公共交通です。学校でも指導していますが、ご家庭でも定期的にお話しいただければと思います。道路の横断については、命に関わることです。赤信号でも渡る子がいる、交差点を斜めに横断する子がいる、などが寄せられる苦情です。先日テレビで特集がありました。歩行者の交通事故を年齢別に見ると7歳が最も多いそうです。これについてもご家庭で定期的にお話してください。

福祉体験 不自由であることの実感…



3年生が福祉体験をしました。3つの体験がありました。一つは、視野が狭くなる眼鏡やおもりのついたベスト、ひじやひざの関節を曲がりにくくするサポーター、手袋、耳栓を装着し、階段の上り下りや椅子に座る動作、ペットボトルのキャップ開け、豆つかみを体験するグループです。2人組で、一人はサポート役を体験しました。子どもたちは、「体が重くて動きにくい」や「転びそうになった」「サポートするのは大変だった」と話していました。別のグループは車椅子体験でした。マットに乗せたり降ろしたりしていましたが、乗っている子たちは「怖い」と言っていましたし、押す方は「段差が難しい」と言っていました。



もう一つのグループは目隠しをして目が全く見えない状態の体験でした。サポートする子の肘あたりをつかみ恐る恐る歩いていました。「動くのがこわい」と話していました。この体験で、体が不自由な方々への理解を深め、どんな手助け、サポートができるのか、どのようにすればよいのかを学びました。



留学生が来校 ずっと交流していたい…



留学生が32名、本校児童との交流活動のために来校しました。5・6年生の各学級と3年2組が交流をしました。名刺交換をしながら自己紹介をしたり、カルタなどのゲームをしたりして、楽しい時間を過ごしました。実際に英語で話したり、身振り手振りで伝えたりとよい経験になりました。給食時間は一緒に準備をし、一緒に食べました。昼休みも一緒に遊びました。5時間目で帰りましたが、正門まで見送り、最後の最後まで別れを惜しみました。



